

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あかね 1F やすらぎ館	評価実施年月日	H20年8月18日
評価実施構成員氏名	小林 ・ 今川 ・ 橋場 ・ 向中野 ・ 児玉 ・ 松田		
記録者氏名	佐伯	記録年月日	H20年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域の中での居場所を築き、明るく快適な生活が送れるような理念を作っている。基本理念「ゆったりとした環境の中で、その人に合わせた生活を尊重します。」ケア理念「一人一人の自発性を促し、不安や孤独感を取り除き、普通に生活が出来るよう介護を行います。」</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をホーム入り口・事務室・ホール等、職員の目に付くあらゆる所に掲示し、常に理念を確認できるよう工夫している。</p>	<p>カンファレンス毎に確認する事で、全職員が理念を共有し、常に意識して実践できるよう取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>地域との交流を深めながら生活している様子を、毎月のおかね便りでご家族にお知らせしている。又、地域の方々にも運営推進会議などでお知らせし、ご意見やご提案を頂いている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>お散歩や日光浴等で近隣の方とお会いした時には、挨拶を欠かさないようにしている。近隣の方々の中には、笑顔で話しかけて下さったり挨拶を返して下さいの方が増えている。グループホームに興味を持たれ立ち寄って下さったり、ウエスなどを持って来て寄付して下さいの方もいる。又、近所には児童会館がある為、子供達が行事ごとに催し物を披露してくれる他、普段でも気楽に遊びに来てくれるようになって1年が過ぎ、入居者さんとの交流も深まっている。</p>	<p>今後も極自然に当たり前の形で、近隣の方々との日常のお付き合いが出来よう努めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会総会に参加させて頂き、地域の方々にグループホームの事を周知頂くことで、孤立感が取り除かれてきている。女性部役員数名が来訪し入居者さんと交流されたり、事業部役員の方がお仲間と毎月来訪し、入居者さんと一緒に健康体操をして下さっている。又、町内や児童館のお祭りにも参加し、楽しませて頂いている。</p>	<p>今後も地域の行事等に積極的に参加する中で、地元の方々との交流の輪を広げていきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々との人脈を構築する事で地域の活動を知り、出来る事で協力させて頂いている。今年度は新たにリングプルや古手紙収集の協力を始めている。</p>	<p>出来る事は何かを考え話し合い、今後も協力させて頂きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>評価を活かし、より良いホームにしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市担当者と面識を持ち人脈を作れるよう努めてはいるが、どうしても会議のみになってしまい交流出来るとは言い難い。会議以外にも行き来する機会が持てるような取り組みを考えたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後の学習会で地域権利擁護事業や成年後見制度について取り上げ、全職員が学べる機会を作りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も虐待という非人道的な事が起こらないよう、職員の精神的管理も含めて行っていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時には十分な時間をとって説明し、入居者さんやご家族の不安や疑問が解消できるよう配慮しながら行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんが、意見や不満等をスタッフに話せるような雰囲気作りを常に心掛けており、何でも話したり相談したりして下さっていると思う。その事を真摯に受け止め、出来るだけ納得して頂ける方向に持っていけるよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行している「あかね便り」に写真添付にてお知らせしている。又、来訪頂いた時にも報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族と日頃から親身にに関わり、信頼関係の構築に努めているので、意見や不満、苦情等があれば率直に話して下さいの方が多く、頂いた意見は反映させ、不満や苦情は納得して頂ける方向に持っていけるよう努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行っているカンファレンスの中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は職員と会話する機会を多く作っており、勤務前や勤務終了後の雑談の中でも、職員の考えを引き出すようにしている。好ましい意見や提案は、迅速に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化に合わせて勤務調整が出来る体制になっている。又、管理者には24時間体制で連絡が取れるようになっており、必要に応じて勤務の調整を行い、柔軟な対応を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は職員が定着するよう様々な工夫をしている。管理者は、職員の日頃の何気ない言動や様子の中から、悩みやストレスなど心の状態を逸早く感じ取り、早めの対応が出来るよう神経を張り巡らせている。傾聴し出来る限りの支援で離職を抑える努力をしているが、待遇に関しての不満は経営者に伝えている。職員が代わる場合、入居者さんへのダメージを最小限度に抑えるよう配慮している。		今後も職員がストレスを溜めないよう配慮を怠らず、入居者さんにダメージを与える事のないよう、職員の定着に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は積極的に研修を受ける機会を作り、管理者はカンファレンスの中で勉強会の時間を設け、スキルアップ出来る環境下にある。</p>	<p>今後もトレーニングの機会を可能な限り設け、職員のスキルアップを目指したい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修などの参加を機会に同業者との繋がりが出来るよう心掛けている。研修終了後も交流の機会を持っており、情報交換をし合い良い面を取り入れて反映させ、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も機会ある事に同業者と交流し、サービスの質の向上を目指したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、管理者や職員に対して食事会など慰労の場を設けている。又、全職員の誕生日を把握しており、パースディーケーキをプレゼントしてくれたり、管理者や職員のストレス軽減の為に工夫をしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>経営者は、研修会や勉強会などの情報を管理者や職員に提供すると共に、研修費用や資格取得費用を負担してくれる等、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居者さんの話を落ち着いた姿勢でゆっくりと傾聴し、困っている事、不安な事、求めている事を自然な形で引き出し、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ゆっくりと時間をかけて、ご家族の思いを受容・共感する姿勢で傾聴する機会を作っている。その事により信頼関係が構築できるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族との話し合いの中から、必要としている支援を見極めるように努めている。グループホーム入居に該当しない方には、各種の居宅介護サービスの情報提供を行い、在宅での生活が円滑に出来るような対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まずは、本人とご家族にホーム内を見学して頂き、入居者さんも交えて談話したりしてホームの雰囲気を確認して頂いている。その時の様子を参考にして食席を決めたり対応を検討する。入居後は本人のペースに合わせて徐々に馴染んでいけるよう家族とも相談しながら、リロケーションダメージ防止にスタッフが常に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんを「人生の先輩」として捉え、長年培われてきた知恵など教わる機会を設けている。介護する側とされる側の関係ではなく、お互い不足する点を補い合い、その事を労い合う関係が保てるよう努めている。嬉しい事は共に喜び、悲しみや怒りは本人の気持ちになって聴くという姿勢を忘れず、関係の構築に努めている。		今後もより深い関係を築いていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、家族と同じ立場に自分をおく事で、喜怒哀楽をも共にして、ご家族と相談しながら本人を支えていく関係を築けるよう努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	お互いの思いが上手く伝わっていなかったり誤解を生じてしまっていると察した時には、職員が介入する事でよりよい関係が継続していけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	古くからの友人や知人が来訪された時には、再度来訪し易いような声かけや環境作りを心掛け、関係の継続を支援している。又、本人の思いを確認しながら、馴染みの場所に行けるよう家族とも相談し支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん個々の性格・長年の生活習慣・認知度などを考慮し、食席を決めたり外出などの行事時の組み合わせを考えている。入居者さん同士と一緒に家事をして頂ける環境を作ったり、難聴で会話に入っていけない入居者さんには職員がフォローする。孤立してしまいがちな入居者さんには、職員が中に入りゲームなどを通して関係作りの支援をする事で、入居者さん同士の関わり合いや支え合いが自然に出来ている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院の為退居になられた方でも、ご家族からの相談に応じたり関係継続に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さんとの信頼関係の構築と話し易い雰囲気作りを心掛け、希望や意向など把握し易い環境作りに努めている。認知症が重度な為、バーバルコミュニケーションが困難な方は表情や行動などのノンバーバルコミュニケーションを通して本人の思いを把握できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前には必ず、担当ケアマネやソーシャルワーカー等からの情報とご家族や知人からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握は出来ているよう努めている。入居後は、入居者さんとの会話や面会時にご家族や知人から何うお話の中から情報の骨子に肉付けしていき、豊かな情報が得られるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりが有する力を低下させず、張りのある楽しい毎日を送れるように、個別に『役割』と『楽しみ』を職員で話し合い見つけ出している。楽しみと有する力は個々で異なるが認知症が重度になっても必ずあるとの信念で把握に努めている。		今後も継続して取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となり、全職員で介護計画に関しての話し合いの場を設けており、お互いの意見・情報・アイデアを出し合い、本人や家族からの要望や意見も取り入れて作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の評価・見直しは、通常3ヶ月毎に行っているが、新規の場合は入居前の情報により暫定ケアプランを作成し、1ヶ月以内には見直しを行う。又、状態に変化が見られたり新たなニーズが考えられる場合には現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌と個別の記録により、全職員が情報を共有できるような体制になっている。情報を共有し実践している事で、介護計画の見直しにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況に応じて、管理者が通院介助を担うなど柔軟に対応している。又、24時間医療機関と連絡が取れるシステムになっており、安心して生活できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議には、民生委員・児童館館長・まちづくりセンター長・ボランティアさんにも参加頂いており、貴重なご意見やご協力を頂いている。又、消防には救命救急講習・避難訓練や運営推進会議時の講義の協力も頂いており、札幌市の出前講座も利用している。		地域資源との協働を更に密にしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容や紙おむつ支給サービスを活用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には地域包括支援センターの介護支援専門員もご参加下さり、繋がりが持っている。今後必要になった場合は是非協働していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所と連携している医師について、入居時に管理者から本人及び家族にお話し、希望を伺って納得の上でかかりつけ医になっている。希望等があれば必ずかかりつけ医に伝え、医師も親身になってくれる。かかりつけ医とは信頼関係も築けており、24時間体制で適切な医療が受けられている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	関係の築けているメンタル専門医があり、専門医に結び付ける必要性を感じた場合は、家族やかかりつけ医とも相談し、専門的な治療を提供できるような支援体制が整っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が来館して日常の健康管理や相談をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院になった場合でも入居者さんのダメージが最小限に抑えられるように、入院中も病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、職員は頻繁にお見舞いに行き、状態をその都度、かかりつけ医やご家族と情報交換している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	機会ある毎に本人やご家族からの意向を伺ったりお話しする機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した入居者さん対しても、人生の先輩として尊重し、その人らしくより良く生活してもらえるよう支援している。現在、終末期の入居者さんはいないが、管理者はターミナル研修を修了し、終末期に向け前向きに準備・検討中である。		終末期支援に必要な不可欠である職員の資質と意識向上の為の取り組みを考え実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>十分な情報交換により、環境変化によるリロケーションダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人らしさと尊厳を大切に考え、言葉かけや対応には配慮している。又、個人情報は関係者以外の目に触れないように配慮しているが、名簿等が事務室に掲示されている為、事務室を空室にする時には戸を閉める等、考慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆったりと落ち着いた話し方で、本人の理解力に合わせて説明を行い、自己決定を促しながら納得できるよう支援している。</p>		<p>権利である自己決定が出来るよう、精一杯支援したい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な業務の流れは決めてはいるが、あくまでも入居者さん優先で、本人のペースで希望に即して過ごせるよう支援している。</p>		<p>今後も個々のペースを大切に考え、その人らしい暮らしが出来るよう支援を継続していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意志での身だしなみが難しい方には、爪切り・耳掻き・顔剃りを定期的に行っている。自己決定できる方は好きな洋服やアクセサリでおしゃれをしてもらい、難しい方は本人に似合う色合いの洋服やエプロンを、本人の反応を見ながら職員が選び、その人らしいおしゃれが出来るよう支援を行っている。理容・美容は、毎月の訪問美容を利用しているが、本人の望む店があれば対応する。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立はカロリー等を考慮し栄養士が作成しているが、調理方法や味付け等は極力要望に応えたり、週末は入居者さんの好みの物を提供したりなど、食事の時間が楽しみな時間となるように工夫している。簡単な調理・下ごしらえ・盛り付け・片付けは、本人の有する力と希望に合わせて一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙する入居者さんはいないが、お酒好きな入居者さんにはお酒を楽しめる時間を設けている。おやつと飲み物は、1日2回のおやつの時間に本人の好みに合わせて提供している。買物を希望される場合は、スーパー等で嗜好品が購入できるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックで、排泄のパターンや習慣を把握し、早めの声かけ・誘導にて排泄の失敗や放尿を防ぐ事で本人に不快感を与えないよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望や体調に合わせて入浴して頂いている。入浴拒否が見られる場合は決して無理強いせず、気持ちが向くような声かけ・対応にて、入浴を楽しめる時間に思えるよう工夫している。拒否や体調不良にて入浴出来ない時には、清拭・ドライシャンプー・足浴にて保清に配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ホールにソファを置き、玄関フードや事務室前にはベンチを置いて休息したり、涼んだり、日光浴したりと寛げる場を確保している。又、夜間の安眠の為に日中の散歩やレク・体操等で活動を促している。なかなか眠りにつけない方には、暖かい飲み物の提供や職員の関わりにて、落ち着いた安心して入眠できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人にとっての楽しみは？どんな役割が出来るだろう？と全職員で個別に考え、無理のないよう配慮しながら促している。その事で張りや喜びのある日々が送れるよう支援している。又、踊り・歌・手品・腹話術など多種多様なレクボランティアさんの慰问を毎月お願いしており外出レク等も計画し、気晴らしの支援を行っている。		個々に合わせた役割と楽しみ探しを今後も継続し、気晴らしの機会も大いに作り、入居者さんの自信に満ちた笑顔を増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は自己管理されており、管理に不安のある方はホーム側で管理して少額ずつお渡しするようにしている。認知症が重度の方でも職員と一緒に買物に行き、社会性を失わないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に添って、職員と一緒に散歩や外気浴、買物に出かけられるよう支援している。外出レクや外食も行っており、屋内だけではなく屋外での楽しみの機会も積極的に作っている。		今後も積極的に屋外での楽しみの機会を提供したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者さんと職員との外出は、年に数回は普段行けない所へ出かける機会を設けている。一人ひとりの希望を出来る限り聴きたいとの思いで、個別に職員と出掛ける事もある。家族との外出・外泊に対しての支援もしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ホールや事務室に電話を設置している。又、自室で気兼ねなくゆっくりお話し出来るようにコードレス電話も用意しており、いつでも使えるようになっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を決めずに自由に訪問して頂いている。自室でお茶を飲みながらゆっくりおしゃべりして頂いたり、相談事や心配事には親身に耳を傾けお答えする等、居心地良く過ごせるよう配慮している。		訪問の少ない入居者さんが、他入居者さんを羨ましく思ったり寂しい思いをしないよう配慮していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を受けたり、カンファレンスの中での勉強会を通して、全職員が周知出来るようにと努めているがまだ充分ではない。しかし全職員、人間としての倫理性と優しさが具わっている為、入居者さんが苦痛と感じる身体拘束はしないケアは日常的に自然と取り組まれている。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を、全職員が正しく理解できるよう学習会で取り入れたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵は付けていない。鍵を希望される利用者さんも居るが、お話しして納得して頂いている。玄関には日中鍵はかけておらず、見守り強化で対応している。外に行きたい時には自由に出来るようにはなっているが、安全面に配慮し必ず職員が同行する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りリーダーを中心に安全に配慮している。自室に居る方も、時々訪室し様子を確認しているが、その際、ロックや声かけ後に徐々にドアを開けながら入室するようにし、プライバシーには充分配慮している。		入居者さんのプライバシーに配慮しながらも、危険がないよう確認を徹底していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	漂白剤・洗剤など危険な物は手の届かない所に保管している。はさみや剃刀など個人の危険物に関しては、入居者さん個々の状態や能力を見極めて、こちら側で保管した方が良いと判断した物は、話し合い、充分納得して頂いてからお預かりしている。入居者さんの身の安全を配慮しながらもソフトな取り組みをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止や事故が起きてしまった時の対処方法は個々異なる為、入居者さん一人ひとりの状態を全職員が把握し知識を養う機会を設けている。しかし全職員が十分な知識を持っているとは言い難い。判断に迷った時には管理者から指示を仰げる体制にはなっている。		今後も定期的に知識習得の機会を設け、事故防止に取り組んでいきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防の救命救急講習を受け、心肺蘇生など緊急時の対応を全職員が出来るように努めている。管理者が消防の応急手当普及員の資格を持ち、更新講習を受けた際の知識などを、職員に還元しているが全職員が応急手当や初期対応が出来るとは言い難い。		頭の中の知識だけではいざという時の対応は難しい。実技講習を受ける機会を増やしたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防による避難訓練は毎年受けている。又、災害時に効率良く入居者さんが避難出来るように、カンファレンスなどで話し合ったり万一来に備えている。地域の人々とは、協力を得られるような関係作りに努めているが、災害時の事を考えると懸念される。		災害時に地域の方々の協力が仰げるよう、避難訓練には地域の方にも参加して頂き、地域の方も出席されている運営推進会議でも協力をお願いしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時や来訪時に話し合う機会を持っている。抑圧感を与えることなくのんびりと、それでいて安全に過ごせるよう考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>今後も迅速な気付きと迅速な対応を心掛けたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>全職員が充分把握できるよう、今後も学びの機会を作っていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔ケア自立の方でも、定期的に口腔内の確認をしていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用品・布巾などは毎晩消毒を行い、台所も清潔を心掛けている。食材の在庫チェックはまめに行い、賞味期限等は必ず確認し、常に新鮮で安全な物を使用出来るよう、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	建物周囲には花を植え、木製のベンチも置かれ、温かい雰囲気醸し出せるように気配りしている。玄関は日中施錠をせず、癒しと和みをテーマにイラスト付きの詩を貼ったり、花のリースを飾ったりなど親しみやすさを工夫している。		入居者さんやご家族だけではなく、近隣の方が親しんで出入りしやすいような工夫を今後も続けたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	花を生けたり写真や絵を貼ったり等、明るく心地良い環境作りを工夫している。七夕・クリスマス・お正月など季節に合わせた小物を飾ったり、季節感も取り入れている。居間のホワイトボードには月間予定を記入し、行事を楽しみながら待てるように工夫している。トイレは職員も同じトイレを使用する為、常に清潔に保て不快感なく気持ち良く使用できる。		今後も工夫を怠らず、入居者さんにとっての第2の家庭を、更に居心地良いものにしていきたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファやベンチを置いて、自室以外の場所でも一人になれたり、気の合う入居者さん同士で談話出来る居場所の工夫をしている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居の際には、本人が昔から使っていた物など、馴染みの物を持って来て頂けるようご家族にお願いしている。入居後も、家族・ペット・行事の時などの写真を自室の壁に貼ったり、手作りの小物など本人の気に入った物を自由に飾って頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	24時間換気システムや温湿度計を設置して、快適な室内環境を保てるよう配慮されている。パネルヒーターは全室に設置してある為、本人の好みや健康状態を考えて微調整できる。暖房を使用する時期には、ホールだけではなく全室に加湿器を置き、空気の乾燥防止に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

長い人生、今まで頑張ってきた入居者さんに、楽しみとやすらぎの中で、人間としての尊厳を持った余生を送って欲しいと考えています。どんなに認知症が重度になっても、人生の先輩としてそして『あかね』と言う家庭の尊い家族の一員として、心豊かに生活して欲しいのです。私が誇りに思う事は、全職員がそのような気持ちを当たり前を持っており、ぬくもりあるケアに携わってくれているという事です。入居者さんに、認知症の行動・心理症状が殆ど見られず、穏やかに過ごされているのはその為だと自負しています。今後も、認知症ケアの専門職としての職員の育成に力を入れ、入居者さんに関しましては、レクボランティアさんや地域の子供達の慰問、新たに加わった地域の方々の健康体操教室の継続、外出レクや普段の外出などで、楽しみや生き甲斐を見出して頂きたいと思っています。そして、地域の方々との交流が益々活発になるよう、今後も働きかけを継続していきたいと考えています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あかね くつろぎ館	評価実施年月日	平成20年8月25日
評価実施構成員氏名	君島/小清水/大島/佐藤/中地/澤田/澤谷		
記録者氏名	澤谷	記録年月日	平成20年8月28日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を作り、来客者や面会者からも見える場所に掲示している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の目の届く所に理念を掲示し、認識できるようにしている。改めて言葉や文章としての理念を念頭にケアは行っていないが、「その人に合わせた生活」「その人が生きがいや喜びを感じ、明るく快適な生活ができる」ように、身体で感じてケアすることができている。	言葉や文章としての理念を把握しなければならないのであれば、今後カンファレンス等で理念の確認を行い、周知していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催時に、ホームの活動内容などを報告し、生活の様子を理解して頂けるよう取り組んでいる。ご家族には、生活状況を把握してもらえる様毎月お便りを発送し、面会時には近況報告を行い、ホームでの様子をより理解して頂けるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などで外出する際、近隣の方々と挨拶を交わしたり、ホーム行事として行っている余興への案内を玄関先に掲示している。また、近くの児童会館の子供達とも交流が深まり、行事以外にも「遊びにきました」と気軽に立ち寄っていただける様になった。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会している。地域のお祭りなどの行事に参加し楽しませていただいている。また、町内で活躍しているグループが月1回訪問し、入居者と一緒に体操指導してくれている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	毎月カンファレンスを開催しているが、入居者のケアプラン見直しやケア内容の確認・勉強会を開催するのが精一杯である。	今後は運営推進会議等で地域住民の方々の意見を参考に、当グループホームとして役立てる事は何かを検討し、随時取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員一人ひとりが行い、現状の理解・再確認を行っている。また、外部評価の結果はカンファレンスで全職員に周知し、改善に向けすぐに取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、行事内容の報告・意見交換をすると共に、高齢者に関するテーマや、時季に応じたテーマで講演をして頂き、サービス向上に役立てている。(口腔ケアの大切さを講演して頂いた後に、毎食後の口腔ケアを行うように取り組んだ)		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の講演を区の方に依頼する程度で、それ以外の交流はほとんど出来ていない。定期的に行われている管理者連絡会議には参加している。		積極的に連携の取れる関係作りを行っていききたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者研修等で学ぶ程度であり、職員全員が理解するまでには至っていない。そのため、必要時に支援できる体制が万全とは言えない。		現在のところ対象者はいないが、今後必要と思われた時にスムーズに利用できるよう、研修会の参加や勉強会を開催していききたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持っていないが、日常では職員全員が虐待防止に努めている。		カンファレンスを利用し、虐待はじめ、身体拘束等について勉強会を開催していききたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約に関しては十分に時間をかけ説明し、利用者、特にご家族様には契約内容や解約理由等を十分に理解していただいたうえでやっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満・苦情はその都度聞き入れる姿勢で毎日対応しており、対応可能な部分に関してはその場で対応し、検討が必要な場合はカンファレンスで話し合い、できるだけ利用者の意向に沿えるように対応している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回ご家族に各利用者の暮らしぶりやホーム行事、職員の異動等記載し、各担当者からのコメントも入れ送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に苦情ボックスを設けているが実際には活用されていない。そのため、面会時には利用者の近況報告すると共に、意見や不満・苦情等が無いかな尋ねたり、話しやすい雰囲気を作ったりし、心がけている。また、ケアプラン送付時にも上記一文を添え送付している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務時やカンファレンスで職員からの意見を聞き留め、管理者の方から運営者に意見を述べ反映できるようにしている。また、逆も同様に対応することができている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診対応等、事前に予定が分かっている時は、利用者や他職員に迷惑とならない様なシフトを組んでいる。また、突発的な対応が必要な場合は、適時対応しており、各職員も協力的で柔軟に対応してくれている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は離職者を減らしたいということから、一定期間の勤続者に報酬を与えたり、各職員の誕生日にはプレゼントを渡したり等の配慮をしてくれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修を受ける機会は設けてもらっているが、全職員が受けれる体制にはなっていない。</p>	<p>全職員が研修に参加することができるように、各職員の意識改革と、研修に参加できない場合には勉強会などでスキルアップにつながるよう、補っていききたいと思う。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は研修会や管理者会議等で同業者と交流する機会はあるが、職員はそのような機会がほとんど無い。</p>	<p>運営者は同系列施設を持っているので、その施設と交流ができるよう、施設見学や合同での勉強会開催など、交流が図れるよう今後取組んでいきたいと思う。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は現場に訪れ職員の意見を聞いたり、人間関係の把握に努めている。また、職員に対して慰労の意味で会食の場を設けている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>必要な各種研修費用は会社負担で受けさせてくれている。また、勤勉者や資格取得者にはベースアップ等考慮してくれている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前には、必ず本人にお会いし、不安や希望をよく聴き、ニーズを把握するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>上記同様、ご家族にも事前にお会いし、可能な限り利用者・ご家族の希望に添える介護ができるよう、スタッフ間で話し合いを持っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の思いなど、状況の確認を行い、必要としている支援・どのようなサービスが必要か見極め、ご家族に提案させていただいている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前にホームを見学して頂き、ホームの雰囲気を感じてもらい、納得した上で、利用(入居)して頂いている。また、ご家族や居宅ケアマネからの情報を頂き、利用者個々の馴染みの生活ができるよう対応させていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	時には一緒に肩を並べお茶を飲みながら、利用者の若かった頃の話や興味のある話をしたり、利用者の得意分野をお手伝いしてもらいながら、昔ながらの慣習や知恵などを教わっている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族から利用者の生活習慣や馴染みの物などを聞き、ケアに反映させるなど、家族と情報交換を行っている。また、面会時にはホームでのエピソード等をお話しし、一緒に笑いを共有したり、互いにケアで悩んでいる時には意見をもち寄り、協力していけるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの家族関係を十分に把握できるよう、家族・本人の思いを確認し、職員がクッション役となり、より良い関係が築けるよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの場や好きな場所などに行けるよう工夫したり、友人や知人が来訪しやすいような雰囲気作りをしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日の生活の中で皆ができてそうな簡単な作業などを通し、利用者同士が関わりを持てるよう支援している。また、職員も利用者の輪の中に入り、楽しく和やかな時間を過ごせるよう、努めている。孤立しているような利用者に対しても、職員が中に入り、関係がうまくいくような配慮をしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	先日退去された利用者があり、その方には皆で寄せ書きをし渡したり、気軽に遊びに来れるよう、声掛けや電話などしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情から気持ちを汲み取り、その真意を推理して接している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や知人から情報を頂いたり、普段の何気ない会話の中から情報を得ている。また、これらの情報を記録に残し、スタッフ間で把握できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員は日々の関わりや、個人記録などを通してトータル的に利用者個々を見るよう努力している。そのうえで、心身状態や個人が有する力に目を向けるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式の様式を利用し、各担当職員が利用者の希望・現状・課題・できる能力を把握し、それを元にスタッフ全員で話し合い、介護計画を作成している。支援専門員が事前にご家族からの希望や意見も伺い、プランに反映できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に計画の見直しは行えている。また、利用者の状況やプラン内容によっては、評価期間を変更したり、評価時期前に特変があった場合などはその都度話し合い、プランを変更している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	昨年9月から記録用紙を変更し、活動内容や睡眠時間、利用者・職員の言動などわかりやすく記録することができている。また、他者が閲覧してもわかりやすい記録になったと思われる。職員も細かく記載してくれている。また、重要事項などは別ファイルに記載し、職員が共通理解できやすいようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急時はもちろんのこと、本人やご家族の状況に応じ、通院などの必要な支援は柔軟に対応できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域消防職員に救命救急講習や、避難訓練、運営推進会議での講演などをしていただいたり、児童会館の子供達の訪問や児童会館への招待など協力を得ている。		外出レクなどの行事時、職員で対応できない時など、ボランティアの協力を得るなど、今後検討していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険ではグループホーム入居と他介護サービスの併用はできないので、他のケアマネージャーやサービス事業者との話し合いやサービス利用には至っていない。例えば介護用品購入時は介護用品取り扱い事業者と話し合い用具を決めたり、空き部屋が出た時は、電話やFAXで各事業所に情報を流し、入居希望者を募るなどの連絡はしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加してくれ、その際に情報交換や相談ができるようになってはいるものの、密な関わりはとれていない。		必要に応じて地域包括支援センターから情報を頂いたり、逆にホームの情報を提供したりし、お互いに協働できるような関係となれるよう努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前にかかりつけ医や受診希望病院などの確認を行っており、本人・家族の希望するかかりつけ医を決定している。月2回かかりつけ医の往診があり、緊急時も柔軟に対応して頂いている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>まずはかかりつけ医に相談し、助言を頂いてから必要時に専門医を受診する体制をとっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>今年の1月から医療連携体制をとっているため、かかりつけ医以外に医療関係者からの視線で利用者の健康管理ができています。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には介護添書を添え、ホームでの様子など詳しく説明し、利用者が混乱しないよう配慮している。入院中は病院やご家族に電話で状況確認し、入居者と一緒にお見舞いにも行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医療連携体制をとる前に、終末期の対応について職員間で話し合いをしたが、具体的な方針など共有はできていないと思われる。かかりつけ医など、緊急時の対応など現時点で可能な範囲での支援は行ってもらっている。</p>		<p>利用者も重度化してきており、今後は当施設でも終末期ケアに向けた具体的の方針を決め、取り組んでいかなければならないと思う。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>上記同様。カンファレンス等で終末期ケアの話し合いも時折行われているが、具体的な方針を決定するまでには至っていない。</p>		<p>上記同様。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所へ移る際は、フェイスシートやケアプランなどの情報を提供し、環境変化によるダメージを最小限にできるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者ひとりひとりの性格を考え、その方の自尊心を傷つけないよう、声掛けをしたり、さりげなく介助をしているが、他利用者に危害を与える言動等がみられた場合には、注意等させていただくこともある。</p>		<p>左記のような場合でも、人生の先輩であると念頭に置き、全職員が言葉かけやケアができるようにしていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の性格や理解力に合わせ、利用者自身が決定できるような声掛けや場面を作っている。個人によっては、職員が提案したりし、いくつかの事柄から本人が選べるようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な業務の流れは決まっているが、買物や散歩・入浴など利用者の体調や希望に合わせ本人のペースで行えるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自己決定で身だしなみやおしゃれが難しい方には職員が選び、同じ衣類が続かないよう配慮している。また、衣服の汚れなども、その都度交換したり、外出時には本人の望む服に着替えたり、身だしなみには注意を払っている。月1回訪問美容があり、希望者は毛染めやパーマなど行える。また、希望者には本人の望む店の利用ができるよう随時対応している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立は基本的に事業者が考えたものを使用しているが、週末は利用者の食べたいメニューを取り入れている。また、朝食は希望に応じパン食にしたり、臨機応変に対応することができている。下ごしらえや盛付など利用者と共にっており、後片付けに関しては当番制にし、一人の人に偏らないよう配慮している。夏場は一緒に畑から野菜を収穫してきて調理したり、季節感が感じられるようにも対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の希望を聞き、オヤツを決めたり、夕食時の晩酌が習慣だった利用者には自宅にいた時と同じ様に飲酒できるよう、対応している。また、買物を楽しみにしている利用者には近くの商店まで好みの物を買いに一緒に行ったり等の対応も随時行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、時間で声掛けや誘導を行っている。便秘気味の方には水分摂取を促したり、乳酸菌飲料を摂取してもらったり、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の体調や希望に合わせて随時対応している。拒否時には無理強いせず、次の日に対応したり、少し時間を置いてから再度声掛けしたり、入浴したくなるような声掛けしたり、工夫しながら臨機応変に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	散歩や外気浴・お手伝いなど日中の活動を促し、生活のリズムをつくるとともに、利用者の体調・表情を考慮し、ゆっくり休息できるよう配慮している。夜間眠れない方にはホットミルクを提供したり、安心できるようその都度対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者個々の力を発揮できるよう、状況に応じながら、食事の支度・掃除など行っている。歌や花札ゲーム・踊りなども楽しんでいただけるように工夫している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額程度であれば、個々人で管理していただいている。買物等に行った時でもできるだけ個人で支払いができる様に援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調や気分・天候に合わせ、散歩や買物、図書館など行きたい所に行けるよう対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望に合わせ外食をしたり、誕生日の昼食は担当スタッフと外食に出掛けたり、できるだけ外に出る機会を設けている。また、近くの大型ショッピングセンターに買物ツアーに出掛けたり、春には花見を冬には雪祭りを見に行ったりしている。その際にはご家族に文面をもって招待したり、一緒にでかけられるようお誘いしたりしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者の希望に応じ、希望時には電話をかけられるようにしている。また、ゆっくり話ができるように、コードレス電話を使用したり、事務所でゆっくり電話をかけられるよう、その方に合わせた対応をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常識ある時間帯であればいつでも面会ができるようにしている。また、いつでも気軽に来訪しやすいような雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を職員個々が共通認識するところまでは至っておらず、身体拘束とは知らずにケアしていたケースがあった。その際は、管理者から身体拘束にあたりと教え、すぐに止めてもらった。		身体拘束において職員が共通認識できるよう、今後勉強会を開催していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけることなく、利用者がいつでも外に出られる環境にある。夜勤帯など職員が一人になる時間帯は、防犯の意味で施錠している。それ以外は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者を常に見守りながら、料理や記録など、日常業務を行い、さりげなく全員を把握するようにしている。夜間は数時間毎に巡回し、安否確認を行っている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>基本的には自己管理して頂いているが、利用者の状況に合わせ、危険防止に配慮している。工夫しても危険の回避が困難と思われる場合には、利用者の身の安全を考慮して、保管や管理をさせていただいている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットや事故報告書の記載を徹底し、カンファレンス時には事故防止対策委員が主導となり、事故防止に向け対策をとっている。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防の救命救急講習を受け、心肺蘇生法など緊急時の対応を全職員ができるように努めているが、ホームに持ち帰り、定期的な確認や訓練をすることはできていない。</p>		<p>緊急時には迅速に対応することができるように、定期的に確認や訓練を行い、緊急時には全職員がしっかり応急手当ができるようにしていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年1回消防による避難訓練は受けているが、それだけでは不十分と思われる。</p>		<p>災害時エレベーターが使用できない時の避難方法を具体的に話し合い、訓練に向け対応していきたい。また、地域住民の方にも避難訓練に参加して頂けるよう、運営推進会議などで協力を呼びかけていきたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>考えられるリスクは家族に説明し、あわせて予防策も話し合う機会を持っている。抑圧感を感じることなく、安心して生活が送れるよう考慮し、ご家族にも理解していただけるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行っている。また、表情や動きなど普段からよく観察し、体調変化にいち早く気付くように各職員些細なところまで観察している。その状態を記録に残し、必要時には主治医に連絡し、往診などしていただいている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各利用者の服薬内容がわかるよう、ファイルしているが、全ての職員が全ての入居者の服薬内容等は理解することはできていない。服薬内容や処置内容などの変更時には、個人記録に記載する他、職員間で周知しやすいように、引継ぎ簿に記載するようにしている。また、9月から個人記録を変更し、臨時薬の服用や処置した内容などがひと目で分かりやすいようにした。		服薬内容を分かりやすいように、一覧表を作るなど、今後検討し取り組んでいきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品の摂取を促したり、食物繊維の多い食材を多く使用するなど、口から摂取するもので工夫している。また、普段から排便状況を確認しながら水分摂取や運動(散歩や体操)を促し、自然排便できるよう気をつけている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の能力に応じて声掛けや介助を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は毎日チェックし、把握できるよう努めている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を受けてもらっている。調理に携わる時は職員はもちろん、利用者にも手洗いの声掛けをし、感染予防に努めている。また、台所用品の消毒・洗面所でのペーパータオルの使用、外出から帰ってきた時には、うがい・手洗いの施行に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所用品(まな板・ふきん)やシンクは毎日消毒している。食材の残りは日付を記入し冷凍保存したり、状態を確認し冷凍保存や処分をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先にベンチやプランターを置いたり、玄関は開放し気軽に出入りできるように工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テーブルに花を飾ったり、壁には季節に合わせたきり絵を飾ったり、短冊やクリスマスツリーを飾るなど季節感を感じられるよう工夫している。また、トイレは車椅子が完全に入らないので、カーテンを利用し中が見えないようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはソファを置いて、気の合う利用者同士で座って談話できるようにしている。また、食堂テーブルが気の合う利用者同士で過ごせる場所にもなっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際には使い慣れた家具や食器類を持ってきてもらったり、部屋には家族の写真を飾ったり、できるだけ馴染みの物を持ち込んでいただき、自宅での生活と変わりなく生活していくことができるように工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度・湿度計を設置している。建物の構造上、なかなか風が通らないため、夏場はできるだけ風通しをよくする工夫をしている。冬は乾燥しすぎないよう、暖房の調整に気をつけたり、濡れタオルをかけたり、加湿器を設置したりしている。トイレは自動換気扇と消臭剤の使用で臭い等の解消をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者個々の意思を尊重し、基本的に自由に縛らない介護を目指し日々ケアしています。くつろぎ館の利用者はADLが自立している方が多いため、利用者個々のできる能力に焦点をあて、その能力を伸ばしてあげるようなケアを心がけています。また、地域との関わりという点では、児童会館の子供たちとの交流も深まり、お互いに自由に行き来できる関係になってきていると思います。

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)